

学校教育目標		重点目標	
1	智と徳を兼ね備え、社会に貢献できる自律心豊かな近代女性の育成を目指す学校	1	特色ある学校づくりによる「尚絅らしさ」の追及
2	尚絅で学んで良かったと生徒・卒業生・保護者が真に思う学校	2	基礎学力の涵養と部活動の推進による進路志望の実現
3	地域で存在感のある学校	3	掃除・挨拶・礼法等の指導の徹底による豊かな人間性と社会性の育成
4		4	地域に貢献する開かれた学校づくり

自己評価総括のランクは、ABCの3段階とし、次頁以降の「自己評価」で2/3以上A評価となった重点目標項目を「A」ランク、2/3以上A又はB評価を「B」ランク、それ以外を「C」ランクとしている。

重点目標に対する自己評価総括

1	教育内容の改革と尚絅らしさの追及	B	人間教育プログラム充実の一環として礼法教育を推進し、マナー検定や尚絅塾に取り組み一定の成果をあげており、尚絅らしさの追求に繋がるものとして今後も推進する。また、韓国蔚山市の鶴城女子中学校と姉妹校提携を結び、海外修学旅行を継続して実施することで国際交流に対する生徒の意識が高まっている。
2	学習意欲あふれる生徒の確保	B	オープンスクール及び学校説明会は、参加者へのアンケートの結果が好評であり、内容のさらなる充実と参加者増への対策を図り継続して行う。中学校及び学習塾への訪問活動は担当者を決め恒常に実施しているが、特に学習塾に対して積極的なアプローチをした結果、本校への関心が高くなりつつあり、今後の展開に期待が持てると感じている。
3	生徒支援改革	B	進路指導対策として三学年を見通した各種講話や説明会等を実施すると共に、進路の手引き「尚絅通信」を発行して、全校生徒及び保護者に配付した結果、進路意識の向上に繋がっている。今後は、入学後の早い時期から保護者に対する情報提供も充実させることで進路指導の一層の充実を図りたい。また、教育相談にあたっては、特別支援相談員やソーシャルワーカー派遣事業等の公的制度の活用により成果を得ており、継続して取り組む。
4	教育指導力の向上	B	外部講師を招聘して実施した研究授業・指導法研究会は好評であった。また、校内外の様々な研修会に積極的に取り組み一定の成果を得た。更には、目的を明確にした研修会開催・外部研修への派遣を継続して行い、指導力の一層の向上に努める。
5	地域連携の推進	A	本校施設を活用した合同練習会や各種大会が開催され、関係者から高く評価されていることから、今後も積極的に誘致を行い地域への貢献に努めていく方針である。また、学校周辺の清掃活動や道路沿いの花壇への花の植栽等のボランティア活動を行うことで、普段から地域貢献に取り組み地域住民に評価されている。

平成28年度尚絅中学・高等学校 学校評価

『評価基準』 A:十分達成(85%以上) B:概ね達成(70%以上) C:やや不十分(50%以上) D:不十分(50%未満)

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
教育内容の改革と尚絅らしさの追及	人間教育プログラムの充実	年間計画の策定と実施	教育の柱となる各部の活動を集約し、計画を策定する。	A	地震のため計画を見直したが、新計画に沿って実施し一定の成果を得た。
		外部組織の積極的活用	外部の専門家の活用により授業以外の専門的知識を深める。	A	各部署の計画案に沿って目的別の講話、研修及び出前授業を実施した。
		尚絅塾の推進	授業での学びを深め、興味関心を喚起し教養を高める。	B	美術館での鑑賞会や東京大学視察、進研模試復習イベントに参加した。
		礼法教育の推進	礼法教育で学んだ礼儀作法を日常生活の中に活かす。	B	高校2・3年生は、全員がマナー検定上級試験を受験し全員合格できた。
		各種講演会の開催	外部講師の講話・講演を聞き自分の進路実現に役立てる。	A	各部署の年間計画に則って実施、次年度も計画を策定し実施する。
		図書館教育の推進	朝読書を推進し、高い読書目標を掲げるよう意識させる。	A	実施要領に基づき図書館教育を実施したが、概ね良好であった。
	基礎学力の確立	魅力ある授業の推進	教務部を中心に外部講師を招き、授業への指導助言を仰ぐ。	B	外部講師を招聘し英語・地歴公民科で研究授業を行い、充実した研修となった。
		課外授業の推進	総合コースで希望者による始業前の朝課外を実施する。	B	国・数・英3教科セットの受講となつたため、教科によっては欠席が見られた。
		小論文指導の強化	学年に応じた取り組みで指導を徹底し文章力をつける。	B	全職員の意識と指導力向上のため、外部講師を招聘し研修会を実施した。
		自学・自習の習慣化	学習記録帳を活用して、家庭学習の習慣化を定着させる。	B	本校独自の学習記録帳「志」を作成し、時間管理及び家庭学習を指導した。
	課外活動層の活性化と進路保障	生徒会活動の推進	執行部を中心に行事の企画・運営参加により主体性を育む。	B	常任委員会の定例開催により、生徒が委員としての自覚を持つようになった。
		部活動の推進	人間教育の一環として部活動への参加を奨励する。	A	体育系部活動の活躍と同時に、文化系部活動の活躍も目立った。
		課外活動での進路指導推進	部活動等の実績を活かした進路実現を奨励する。	B	部活動実績による指定校枠を今年度限りではあるが拡張することができた。
	国際交流の推進	海外修学旅行の実施	中高において海外修学旅行を実施し、異文化理解を深める。	A	シンガポールでは環境教育の充実した中学高校と一緒に充実した交流ができた。
		姉妹校提携の推進	交流拠点として姉妹校提携を推進し、国際的視野を醸成する。	A	韓国蔚山市鶴城女子中学校を訪問し、姉妹校締結と交流会を行った。
		留学の推進と制度の策定	生徒及び保護者に留学情報を提供し、説明会を実施する。	B	希望者対象の説明会を実施し、数名の生徒が短期留学を行った。
		留学生受け入れの推進	外部団体との連携による希望者受け入れを積極的に行う。	A	タイ・ドイツからそれぞれ1名の留学生を受け入れた。
		ICC利活用の推進	放課後等にICC室を開放し、生徒が活用できるようにする。	A	各種英語大会に向けた練習の場として大いに活用することができた。
		英語検定試験の推進	放課後等を利用し個人指導を行い検定試験合格に導く。	B	中学3年生は英検3级以上取得率100%を達成し、総合コースから2級に合格した。
各コースの特色作り	カリキュラムの検討	入試改革に向けて委員会で情報収集を行い検討する。	C	研修会や説明会に参加して理解を深め、研修会を通して全職員に浸透させる。	
	クラス編成の検討	コースを活かし教育効果の高い特色あるクラス編成を行う。	B	来年度は3年総合コースにおいて、幼教・文系・理系の3系統とすることとした。	
	進路実績の向上	希望制課外の実施と模試検討会の充実を図る。	B	特進コースの専願特待SSの生徒が、良い進路実績を残すことができた。	
中高大連携の推進	中高大連携事業の推進	総合学園としての特色を活かし確かな進路志望実現を図る。	B	尚絅大学の協力を得て、出前授業・連携授業・大学説明会等を行った。	
	学園内進学時の入試改革	学園内進学が促進されるよう高大連携協議会審議を深める。	B	大学、高校相互の報告会及び意見交換会を実施し、生徒の進路指導に役立てた。	
	中高大職員の交流	入試連絡会を実施し、相互の連携と情報交換を密にする。	B	高大連携推進協議会開催の他、大学教務部と進路指導部の情報交換を行なった。	

平成28年度尚絅中学・高等学校 学校評価

『評価基準』 A:十分達成(85%以上) B:概ね達成(70%以上) C:やや不十分(50%以上) D:不十分(50%未満)

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
学習意欲あふれる生徒の確保	広報活動の推進	広報活動の再構築	効果的な広報活動計画を策定し、全員で中学校訪問を実施。	B	中高で体験型オープンスクールを6回、学校説明会を6回実施し好評であった。
		恒常的な訪問活動の推進	中学校訪問は担当者を決め、年間を通して訪問する。	B	県下中学校は全職員が訪問したが、学習塾訪問は頻度が少なかった。
		担当職員のスキルアップ	全職員を対象に外部講師による研修会を実施する。	C	熊本地震の影響で研修会はできなかつたが、訪問前に内容確認を徹底した。
		学習塾との連携の推進	連携強化のため学習塾との意見交換会を実施する。	A	明光義塾及び熊本ゼミナールとの意見交換会を行い受験生獲得に繋がつた。
	女子教育の長所・強みを活かした広報活動	女子教育の長所を活かした広報	女子校の長所をアピールし、マイナスイメージを払拭する。	B	オープンスクールや説明会等で女子校の特色・長所をアピールした。
		県下女子校との連携推進	他の女子校と合同で熊本県主催の大学支援事業を行う。	B	八代白百合高校と北九州予備校講師による講義を共同受講した。
	特待生制度の活用	特待制度活用した生徒獲得	学力・特技に秀でた生徒を獲得し牽引者を育成する。	B	広報部、部活動顧問を中心に訪問活動を継続し優秀な生徒の獲得に努める。
		特待生制度の再検討	費用対効果の観点から一部を見直し制度の充実を図る。	B	小中学校、学習塾等への訪問を行つたが、制度の難しさを感じる向きもあった。
生徒支援改革	進路指導の充実	進路相談の充実	教育相談、進路ガイダンス、講演会を実施し情報を提供する。	B	講演会等の内容、実施時期等を再検討し、次年度も継続して実施する。
		尚絅ゼミの推進	放課後、個々の進路志望に対応した課外授業を実施する。	B	一貫、総合コース上位層を対象に3教科の習熟度別課外を実施した。
		進路情報提供の徹底	進路指導の外部研修会に職員を派遣し情報収集を行う。	B	各学年で進路ガイダンスを実施し、進路選択の指針とした。
		高大接続テスト対策の検討	文科省で検討されている入試制度等に対する対策を行う。	B	最終的な答申の内容を注視しながら継続して情報収集に取り組む。
	教育相談の充実	個人面談の推進	生徒理解を深め生徒相談の一層の充実と指導の徹底を図る。	A	全校生徒対象の個人面談を実施したほか、生徒情報の共有化を行つた。
		カウンセリングの充実	カウンセリング対象生徒の受診率向上と問題解決に努める。	A	問題を抱える生徒情報共有化のために全職員で研修を行い指導の一助とした。
		保護者向教育座談会の実施	不適応生徒の保護者の悩みを軽減し就学支援の一助とする。	A	教育座談会を年2回実施し、参加者は少数であったが一定の成果は見られた。
		外部組織・人的支援の活用	家庭環境が難しい生徒への支援を県の事業を活用して行う。	A	県私学特別支援相談員派遣事業、時習館ソーシャルワーカー派遣事業を活用した。
	制度の活用	現行制度の活用と再検討	本校の奨学生制度及び公的奨学生制度を活用する。	A	奨学生資格審査内規に則って、審査及び教育相談を実施した。
	育友会との連携推進	保護者会の充実	授業参観・学級懇談を通して教育体制を充実させる。	A	外部講師による進路講話や保護者会と共に授業参観を行い好評であった。
		総会・委員会活動への協力	育友会役員と校内協力委員の定例会議を開催する。	A	年間で総会を1回、役員会を3回実施し、スマーズな運営ができた。
		地区会の推進と充実	実施計画を策定し、育友会・花桜会の協力を得て実施する。	B	地震・台風の影響により中止した地区もあったため3地区で実施した。
	同窓会・後援会との連携推進	同窓会・後援会の会合出席	学校の現状を知らせる一方、情報収集のために出席する。	A	管理職が総会及び各地区懇親会に参加し、現況報告と会員との親睦に努めた。
		学校行事での連携推進	学校との連携を図り、学校行事の一層の充実に努める。	A	文化祭・体育祭・各コンサート等に協力を得て、充実した催しができた。
		卒業生名簿の作成	総会及び支部総会等を活用し、卒業生の情報収集に努める。	C	情報を得るたびに同窓会事務局へ提供したが、徹底には至らなかつた。
教育指導力の向上	職員研修の推進	授業力の向上	全職員参加の研究授業、教科での授業観察等を実施する。	B	全員参加の外部講師招聘緩急授業及び合評会で指導法の研修を行つた。
		校内研修の充実	若手育成を目的とした研修を行い授業力の向上を図る。	B	外部研修会参加後の複講は実施したが、若手育成研修会は実施できなかつた。
		外部研修の充実	研修内容を吟味して職員を派遣するほか他校視察を行う。	A	初任者研修、県教育研修センター研修に職員を派遣した他、他校視察を実施した。
		研修内容の共有化と実践督励	研修報告、研修会復興、研修会資料配付を徹底する。	B	全職員への報告は概ね実施できたが、研究成果の実践には至らなかつた。
地域連携の推進	地域活動の支援とボランティア活動の推進	合同練習会開催の推進	県内外の学校との合同練習会を積極的に行う。	A	アリーナを開放し合同練習を行つたことで、地域貢献及び広報の一助となつた。
		生徒・指導者の外部派遣推進	要請により本校職員及び生徒を派遣し地域貢献を推進する。	A	体育系部活動生徒及び職員を派遣し、要請に応えることができた。
		ボランティア活動の推進	各種ボランティア活動への派遣を推進する。	A	熊本地震及び熊本城マラソンの他、本校周辺の清掃等のボランティア活動を行つた。
		各種大会の積極的な誘致	地域活動の支援を行い、本校の諸活動の活性化に努める。	A	尚絅杯ソフトテニス大会、はなさくらコンサート等を実施した。

学校生活に関して「生徒」「保護者」にアンケートを実施しました。

○:よくあてはまる・ややあてはまる。 ●:あまりあてはまらない・全くあてはまらない。

生徒による評価				生徒による評価の総括
1 尚絅に入学して良かった	○ 75%	● 19%		
2 友人と仲良く楽しい学校生活を送っている	○ 91%	● 4%		
3 学力向上を目指して積極的に取り組んでいる	○ 76%	● 10%		
4 クラスマッチ・体育祭・文化祭など行事が充実している	○ 73%	● 18%		
5 しつけ・礼法教育に積極的に取り組んでいる	○ 80%	● 11%		「尚絅に入学して良かった」「友人と仲良く楽しい学校生活を送っている」と感じている生徒の割合は、昨年度とほぼ同じであったが、否定的に感じている生徒の割合も昨年度と同様に19%と2桁のままであった。根本的な問題がどこにあるのかを分析し、次年度の課題としたい。
6 部活動が盛んである	○ 80%	● 9%		また、3番目以降の項目が昨年度と比べてわずかではあるが肯定的な回答が低下している。今年度の努力目標として掲げている具体的な取り組みを実践しながら、全職員で改善に向けて努力していくたい。
7 施設・設備が充実している	○ 90%	● 2%		
8 掃除など環境美化に取り組んでいる	○ 80%	● 6%		
9 先生や来校者に挨拶がきちんとできている	○ 84%	● 4%		

保護者による評価				保護者による評価の総括
1 尚絅に入学して良かった	○ 88%	● 8%		
2 友人と仲良く楽しい学校生活を送っている	○ 91%	● 7%		
3 学力向上を目指して積極的に取り組んでいる	○ 80%	● 15%		
4 クラスマッチ・体育祭・文化祭など行事が充実している	○ 83%	● 14%		
5 しつけ・礼法教育に積極的に取り組んでいる	○ 89%	● 7%		「尚絅に入学させて良かった」「友人と仲良く楽しい学校生活を送っている」と感じている保護者は、昨年度とほぼ同じ結果となり、一定の評価を得ていると思われる。しかし、「学力向上を目指して積極的に取り組んでいる」という項目については、肯定的な回答が昨年度と比べて3%減少している。質の高い授業を提供するための授業研究、自学の定着化、家庭学習の在り方、希望者朝課外の内容等の検証が必要と考える。生徒の学力を保証するための授業研究をはじめ、生徒が自主的に学習に取り組めるような指導に全職員が取り組む必要がある。
6 部活動が盛んである	○ 79%	● 13%		
7 進路指導が適切に行われている	○ 70%	● 19%		
8 施設・設備が充実している	○ 96%	● 2%		
9 掃除など環境美化に取り組んでいる	○ 85%	● 6%		

学校評議会(保護者の代表・同窓生の代表)に評価をお願いしました。

- ・礼法教育の成果が、平素の生徒の様子や式典等での生徒の態度に現れており、同窓生として誇りに思う。
- ・熊本地震の影響を感じさせない学校行事の盛り上がりや、進路実績や部活動等の活躍であった。
- ・朝課外や部活動に取り組んでいない生徒に対して、積極的な働きかけや自ら学ぶ仕掛けを作っていく等の対策が必要であると思う。
- ・進路に関する具体的な情報を入学後の早い時期から適宜提供していただければ、時期に応じて子供と一緒に学び考えることができるのでご検討いただきたい。
- ・熊本城マラソンや清掃活動等のボランティア活動に積極的に取り組まれており、生徒の成長の一助となっていると感じる。

■ 総合評価

① 教育内容の改革と尚絅らしさの追及

教育内容の改革への取り組みのひとつとして国際交流の充実を図ることができた。一貫コースの生徒の希望者を募り韓国鶴城女子中学校との姉妹校締結を行うことができた。今後は更に、姉妹校としての交流を深めていきたい。また、長期休暇中に海外留学に挑戦する生徒も徐々に増えつつある。説明会等を開き更なる生徒の意欲を高めていきたい。尚絅らしさの追求として礼法教育の推進の一つとして、例年マナー検定上級全員合格に取り組んでいるが、検定試験にとどまらず、挨拶や言葉遣いなど全校集会や週番の取り組みの一つとして日常生活から見直しを呼びかけてきた。来客者からは、良い評価をいただいている。

② 学習意欲あふれる生徒の確保

意欲ある生徒を確保するために、広報活動をさらに強化していくことが、今年度の目標であった。その一つとして学習塾との意見交換会を実施した。塾との連携を図ることで、より意欲的な生徒への声かけや情報等を知ることができ、生徒獲得へと繋がった。特に、中学受験生への働きかけにおいては好評であった。今後も継続して取り組む予定である。また、在校生主導の体験型オープンスクールを中高3回実施したが、好評だった。更に、内容を検討し、充実したものに改善していく。

③ 生徒支援改革

進路指導の充実を図るため一貫・総合コースの上位層対象の尚絅ゼミを実施した。教科についていくつかの課題は残るが、意欲的な生徒の更なる応用力の充実や模試対策など授業では手が届かない分野の充実を図ることができた。今後は、内容の充実に努め、より良いものにしていくため教科ごとに検討を重ねる。生徒の心のケアのために毎週火曜日にスクールカウンセラーによる相談を実施しているが、年2回問題を抱える生徒の情報共有化のために全職員で研修会を行い、特に今年度は地震後の対応として職員を対象に研修会を行ったり、生徒アンケートを実施し早急に問題解決に取り組んだ。

④ 教育指導力の向上

授業力向上のため、例年、外部講師を招き研究授業を実施していたが、地震のため1学期は中止し、2学期に地歴公民科、英語科で研究授業を実施し、指導法の研究を行ったほか、各教科で授業研究及び反省会を実施し授業力改善に役立てた。また、若手職員を対象に他校視察研修を実施したところ、非常に熱心な取り組み状況であった。

⑤ 地域連携の推進

地震により体育館が使用不能となった学校に対してアリーナを開放し、可能な限り合同練習を行った。また、全校生徒の約3割が熊本地震によるボランティア活動に参加したり、熊本城マラソンのボランティア活動に約100名が参加し、奉仕の精神を養い、地域貢献への意識向上へと繋がった。

■ 平成29年度への課題・改善方法

- ① 礼法教育の一環として挨拶、掃除の徹底を次年度の努力目標として掲げ、更なる徹底を図るため具体的な実践方法を検討していく。特に、挨拶においては校内のみならず広く日常の生活の場で活用できるような取り組みを指導していきたい。
- ② 課外授業を希望者課外にすることにより、意欲的な生徒は充実した取り組みをすることができたが、一方で消極的な生徒との差がますます広がる結果となった。また、教科により偏りも見られ、担当者の力量が問われる結果となっている。今後、授業内容の充実をいかに充実したものにするかが問われている。授業は勿論、課外の内容も含めより良い授業を生徒に提供するため、今後は更なる研究に取り組む。
- ③ 2020年から実施される大学入試改革に備え、授業力向上だけでなく、多様化される入試内容に応じた指導力を養う必要性は大きい。入試改革を十分研究した上でカリキュラム編成は勿論、アクティブラーニング、ディベート、プレゼン等従来の小論文指導や面接指導に加えて教師の教科指導力、進路指導力をつけることは必須となる。そのための自己研鑽をはじめ、積極的な研修会参加、外部試験のチャレンジも教師に求められる。
- ④ 入試結果を検証して、入試の在り方、広報活動の在り方、全職員の意識改革について検討を行うと共に、広報部員のスキルアップを図りたい。公立中学への訪問は勿論であるが、塾や習い事など小規模校にも手が届くような広報活動を行いたいと考える。また、育友会、同窓会、後援会の各種会合等を活用した広報活動の一層の充実に努める。